

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

(昭和36年9月15日
第三種郵便物認可)

購読の申し込みは
日本医労連へ
購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866
ホームページ http://www.irouren.or.jp/
電子メール n-ask@irouren.or.jp

24春闘

賃上げ率は最低でも8%

報酬改定にペア明記 他産業では15%予測

2024年度改定の中身

2024年度の診療報酬改定において、診療報酬本体の+0.88%のうち、0.61%分は「看護職員や病院薬剤師などの処遇改善」に充当することが決まりました。また本体改定分+0.46%のうちには、「40歳未満の勤務医師・勤務歯科医師・薬局の勤務薬剤師、事務職員、歯科技工所等で従事する者の賃上げに資する措置分」として0.28%が含まれています。

介護報酬については1.59%のプラス改定を行い、うち0.98%は「介護職員等の処遇改善」に充てられ、残りの0.61%の中で「介護職員以外の処遇改善」を行うことが決まりました。また「処遇改善加算の一本化等による効果(+0.45%)」と合わせれば、+2.04%相当になります。これにより、医療も介護も「ペア+2.5%、+2.0%の賃上げを行う」ことをふまえた報酬引き上げとしていきます。

障害福祉サービス等報酬改定は+1.12%となり、処遇改善とともに、障害者が希望する地域生活の実現にむけ重点的に支援することが決まりました。

報酬改定パネに要求実現

この間の私たちの運動によ

2024年改定の診療報酬

アップ分を盛り込まれることができませんでした。よって、ペアアップ2.5% (平均約6千700円) に定期昇給分の約2%を加えれば、24春闘では賃上げ率は最低でも4.5% (平均1万2000円) 以上なければなりません。そこに、23年平均3%を超える物

り、2024年改定の診療報酬・介護報酬に職員のベースアップ分を盛り込まれることができませんでした。よって、ペアアップ2.5% (平均約6千700円) に定期昇給分の約2%を加えれば、24春闘では賃上げ率は最低でも4.5% (平均1万2000円) 以上なければなりません。そこに、23年平均3%を超える物

24春闘 事前配置・準備

ストライキ権確立 402組織

ストライキ配置組合 161組織

3・14統一行動配置 356組織

異常な円安と物価高が国民生活を直撃しています。世界各国での最賃引き上げと大幅賃上げのすう勢や、ケア労働者の賃上げを明言した日本政府の対応、そして国民生活と日本経済を立て直すための必要性を考えると、24春闘での大幅賃上げは当たり前な情勢です。24春闘では、3月13日の回答指定日に回答を出させ、翌14日の統一行動での総結集を呼びかけます。産別統一闘争の準備状況を把握するため、「2024年春闘・夏季一時金回答状況および統一行動調査」を行いました。3月1日までに届いた報告はス

トライキ権確立402組織、ストライキ配置組合161組織、3・14統一行動配置356組織に上ります。3・14統一行動を成功させよう。国民春闘共闘・全労連は昨年引き続き、3月13日の集り、各交渉単位組合が得た春闘の回答結果を報道する、3・13全国ライプ中継！賃上げ回答速報！ネット特番を実施し、粘り強くたたかう仲間の奮闘と経験を交流し、春闘の可視化します。回答指定日まで2週間を切りました。最大限3月13日の回答指定日に団体交渉を設置

価上昇分や、他産業では賃上げが5%を超える予測がされている中で、物価上昇を回り、他産業との賃金格差を埋めていくためには、賃上げ率8%は24春闘において実現を求め最低ラインです。

深刻な人手不足で、医療機関では病棟集約や診療制限をせざるを得ず、介護事業所では人手不足による事業所閉鎖

も増えています。まさに、地域の医療・介護が脅かされています。深刻な人手不足を解消するためにも、すぐにでも働き方に見合った賃金水準にすることが求められています。

診療報酬・介護報酬に組み込まれた「ペア2.5%」について、「賃上げに資する措置分」あるいは「処遇改善分」

と報酬改定主旨に明記されています。経営の赤字、赤字に係わりなく、その報酬改定分は賃上げ

以外には流用できないのであり、「ペア2.5%」相当を含めて私たちの切実な要求に向き合った賃上げを経営側に迫ることが求められています。

YouTubeLive
24国民春闘 賃上げ回答特番

3 / 13(水)
19:00~21:10



4 / 16(火)
19:00~21:00



ネット特番への出演登録募集中
(詳細は医労連メールニュース No. 72)



脈路

2月の最初の日曜日、最高で最高の候補者を落としてしまった。16年間京都を壊しつづけた市長が引退し、

新人対決といえども、支援する政党や組織の差は歴然だった。「市民が政治を作る」という理念を掲げ、無所属市民派として立候補した、わが京都医労連の顧問弁護士、タウンミーティングを188回開いて、市民の声を拾い上げた彼の政策「すぐやるパツケージ」は抜群だった。市民の心を掴んだかに見えたが、最終盤、相手候補者は組織の引き締めを奔走し、権力者の執念を感じた一方、新しい風も吹いた。初めてマイクを持つて彼を応援した組合役員が2人、3人と。職場のなかまや知り合いに広げ、スマホ片手に推しの情報発信。医労連だけでなく、各職場や地域あちこちでそんな変化が起きた。魅力ある候補者・政策に「京都を変えてくれる」と未来を感じたから、誰にお願いされたわけではなく、自らの手と足で。彼と同じように「民主系」の相手候補者は最後まで一緒となった「自民」を隠し続けた。果たして私たちは無所属市民派を買き通したのだろうか。残念ながら彼を当選させるまでの大波をつくれなかったが、組織に頼らない新しい闘い方を私たちは学んだ。それにしても、残念だし、申し訳ありませんでした。福山さんホントにお疲れさまでした。あなたは最後の最後まで無所属市民派でした。

